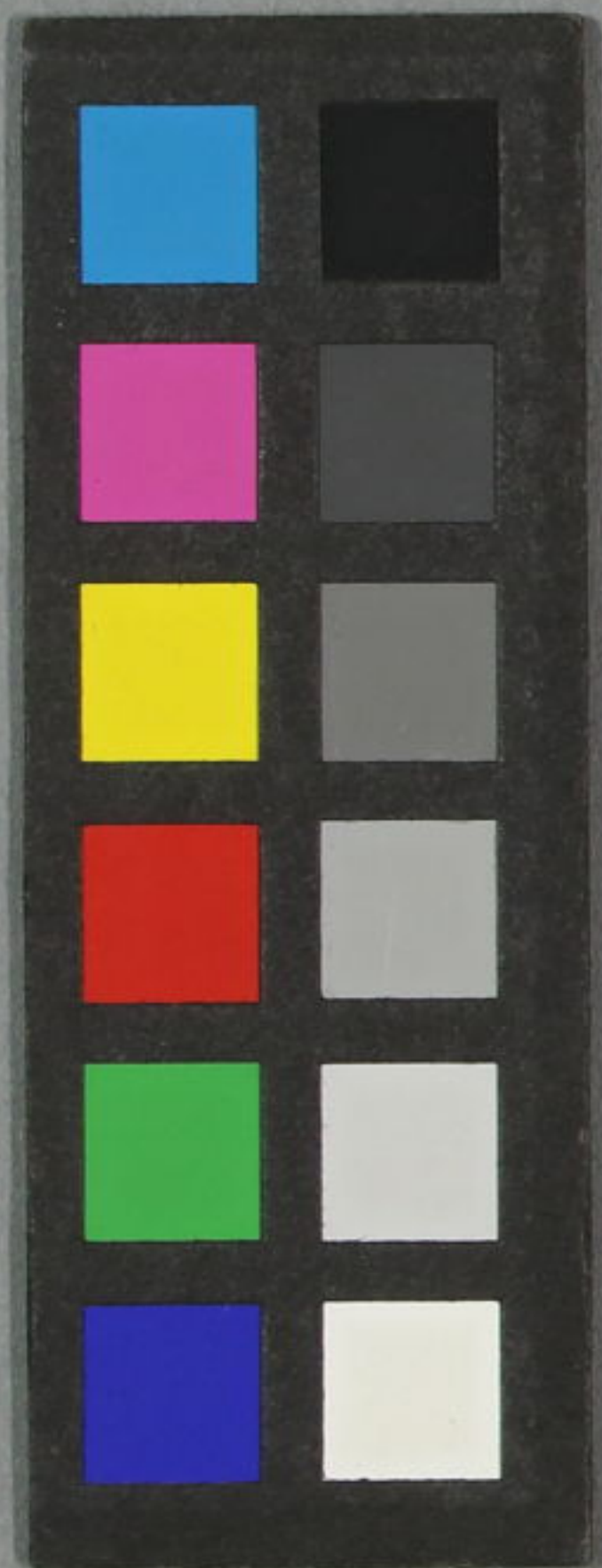


遠

鏡

一

雲英文庫
文庫31
E76
1
早稲田大学図書館



文庫31
E76
/

古今集巻続

きれわとやねこまゑもとやかぐと

うらまはあにみゆりもみちら紫

此書は古今集れあとも河とくくうれそ乃俗流リヒツカ小譚ウツせ
ふんそとく此集はよ小物よくあひり一人はちくまくと
の何まゝいきてのこまゑも何も何も何も何も何も何も
うね色づくひふふれに粒といふまぢいぬいそいそいそいそ
まふ乃指ととれありとぐりいほのふえあせどそのまどふ何や
先もこうぬをそのふちうね里人のあきけつる本はしつらとにるよ
くえまきふぶしあせいひまむい何のまくとれなと

しがらにまじりて指のあやうにたぐひしむらさき色にせし
 むらさき色にまじりてあやうにたぐひしむらさき色にせし
 の耳にたぐひしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 あやうにたぐひしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 とくさうなまじりてあやうにたぐひしむらさき色にせしむらさき色にせし
 しむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 えをまじりてあやうにたぐひしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 ふらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 をやまじりてあやうにたぐひしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 のあやうにたぐひしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし

ぬーれいせきんむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 ていさうにたぐひしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 えーれいせきんむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 ぬらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 あやうにたぐひしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 ぬらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 ろさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 Oーれいせきんむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 むらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし
 Oーれいせきんむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせしむらさき色にせし

てハ穉^{ウヤ}也^ヤ一^カル^ルヲ^ルえ^ル何^レノ^ノ祿^ヲ也^也ニ^シテ^テ今^ノ也^也の^ノガ^ノル^ル也^也也^也
さ^スニ^ニこ^トえ^ルが^ル泥^ノ也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
さ^ス也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
い^ハ一^ノ乃^ノ雅^言也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
中^ニ也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
○俗^語也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
中^ニ也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
に^シテ^テ一^ノ乃^ノ雅^言也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
中^ニ也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
を^シテ^テ一^ノ乃^ノ雅^言也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也

○俗^語也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
又^シテ^テ一^ノ乃^ノ雅^言也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
中^ニ也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
よ^ク一^ノ乃^ノ雅^言也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
中^ニ也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
よ^ク一^ノ乃^ノ雅^言也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
中^ニ也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
よ^ク一^ノ乃^ノ雅^言也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
中^ニ也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也
よ^ク一^ノ乃^ノ雅^言也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也也^也

まことついでに「花咲ふるもさるどい。花が咲タワイし。かそそふびれお花お多
し。さづて俗さふい。かといつての多さ。雅さのぞを多く。かといつて。
花さき里るどい。花ノナイ里。ノをそそ。又さづきて。海さきも有。人し。花は
ぬきてをゆい。い。あ。の。さ。り。じ。を。も。ぬ。で。海さびあて。ハ。沖。に。さ。り。し。

○河のさし。海をあまのう。て。う。つ。と。き。ま。し。お。や。し。あ。ら。ど。と。や。ぬ。く。山。郭。と。
あ。ど。ハ。郭。さ。海。上。へ。う。つ。て。郭。さ。は。ゆ。り。オ。ホ。ウ。ス。テ。ア。リ。ヤ。ウ。ウ。カ。と。海。し。よ。さ。
へ。え。よ。と。て。い。月。新。と。ヨ。ル。デ。ス。ヨ。ト。テ。月。ノ。新。カ。テ。ラ。ス。と。う。つ。し。ち。さ。さ。り。相。
を。思。ふ。う。ら。ま。の。も。ど。い。い。し。り。を。上。ふ。う。つ。て。コ。ゴ。ロ。イ。ロ。く。ト。お。思。ヒ。シ。ゲ。
イ。カ。ナ。と。海。し。り。き。び。く。と。カ。ん。さ。さ。さ。か。み。い。さ。る。を。上。へ。う。た。
し。て。え。ら。ま。さ。ト。コ。ロ。ガ。キ。ツ。ウ。マ。ア。物。サ。ビ。シ。ウ。ス。エ。ル。カ。ナ。と。海。さ。さ。ひ。か。て。これ

雅さし俗さし。い。や。う。れ。あ。ひ。し。又。て。ふ。を。さ。も。と。う。り。を。か。へ。く。海。を。
へ。き。り。り。の。の。り。か。の。の。ふ。さ。さ。で。ぬ。く。あ。ら。ど。の。う。か。る。ま。ふ。さ。さ。し。と。と。
ド。ハ。上。ふ。あ。へ。き。さ。ぬ。れ。も。さ。い。ひ。が。た。な。よ。き。れ。や。お。お。ら。あ。れ。
を。さ。さ。ら。を。え。て。海さき。し。此。は。多。う。さ。り。ぬ。べ。し。

○て。ふ。を。さ。ね。す。ぞ。ゆ。ハ。海。さ。き。河。さ。し。ハ。さ。さ。さ。の。あ。あ。い。ひ。
ら。の。い。れ。お。ふ。カ。を。入。ら。り。ぞ。あ。ら。俗。さ。ふ。ハ。花。が。し。ひ。て。そ。お。ふ。カ。を。入。て。
い。さ。ひ。ひ。と。雅。海。の。ぞ。お。ふ。さ。さ。さ。と。ぬ。を。さ。さ。ら。い。ひ。さ。い。ひ。ハ。お。
に。い。さ。ら。う。づ。も。う。ら。い。れ。が。今。ハ。サ。の。の。辞。を。信。て。ぞ。お。あ。て。花。が。サ。昔。
ノ。さ。し。と。海。さ。き。も。此。は。お。花。さ。さ。さ。ら。い。ひ。さ。い。ひ。さ。い。ひ。さ。い。ひ。さ。い。ひ。
花。し。と。ら。い。め。お。さ。さ。ら。い。ひ。さ。い。ひ。さ。い。ひ。さ。い。ひ。さ。い。ひ。さ。い。ひ。さ。い。ひ。

イマデ皆メラクニソクノ哥ヲヨムチヤワイノ

ちかろをといの色ばしとけ免つらぬうごかー免ふんぬおふ
神をも何をも禮し思つせをそと女乃なるをそとやとーきふけ
きものぬれそらをとねぐさむるいーかた

○千カラモ入ズニ天地ヲウゴカシタリ 目ニ足ニ鬼ヤ神ヲ感ジサシタリ
男ト女トノアヒダラムツマシウナルヤウニシタリ アラマニイ武士ノ心ヲヤシラ
ゲタリナドスルモノハ哥チヤ

このうゝあ免つらぬきとーさるしきぬらういできふらり

○サチハ 哥ト云モノハ 天地ノハジマツタ時カラデケタワイ

けふけうぬのきとめて神を神とぬりぬーとと

○ソハカノ伊弉諾伊弉冉ノミガ 天ノ浮橋ノ下デハ夫婦ノ神 オナ
リナサレタラオヨミナサレタ哥ノチヤ

ふら何とととサリーはーいりあといむさき^馬これあめおーとハ
あててぬ^馬ひめ^馬おと^馬ぬり

○サウチヤケレハ シツカリト哥ト云テ世中ニウタハツテキタハ 天 天
テハ下照姫ト云神カラハジマリ

あてていむ免といあめおみとめぬりせうの神のかとら
をりさふうりてかやをよとんさむいさういぬ^馬ー
これいといぬ^馬もいぬ^馬もいぬ^馬のやうやぬ^馬ぬ^馬ぬ^馬

○下照姫ト云神ハ天若彦ト云神ノ内ニヤウテアツタソノ哥ト云ハ

下照姫ノ兄ゴガ^ミ外ウツクシイ神テ^テワ身ノ光リガ^ミコラノ岡ヤ谷
ハウツテ照リカ^ミヤイタ^ラヲヨダ^モス哥ト云カアルガ^ミ其^ミテ^テアラウ
コ^ラノ文字ヲ^テ数ナドモ定マツタ^ラモナウテ^テあヤウテモナイコト^モモチ
ワ^カカ^ミ乃^ツち^ハし^テハ^ミミ^タレ^テを^ノみ^しヨ^リぞ^おこ^りま^さる

○^あ此國土^のテハ^ハ素盞鳴^ミミカラ^ハハジ^ミワタ^ラ

ち^りや^ぬ神代^ノイ^ハあ^はれ^ぬと^しら^ぶま^まび^をね^やふ^しも
あ^のこ^らの^ころ^にい^がかり^きし

^ち神代^ノ時^ニハ^ハ哥^ノ文字^ヲ数^モ定^マツ^タモ^チコ^ト外^古風^ナラ^デ
^ドウ^クヲ^ヨダ^モン^ヤラ^ソク^ラ心^ガ今^見テ^ハワ^カリ^タイ^コテ^アツ^タサ^ウナ
人^ノ代^トカ^リし^もさ^レを^乃こ^もし^とり^をみ^もト^ル也^ナり

神代ノイハれ

○サ^テス^ノ代^ニツ^テア^カラ^カノ^素盞^鳴ミ^カラ^始マ^ツタ^哥ノ^トホ^リニ^卅一
字^ニサ^ヨム^ニハ^ナツ^タワ^リ

と^さの^をみ^みと^ハあ^まる^もあ^はれ^ぬ神^ノ代^ノ女^トも^こ
あ^はれ^ぬ神^ノ代^ノ女^トも^こあ^はれ^ぬ神^ノ代^ノ女^トも^こ
あ^はれ^ぬ神^ノ代^ノ女^トも^こあ^はれ^ぬ神^ノ代^ノ女^トも^こ
あ^はれ^ぬ神^ノ代^ノ女^トも^こあ^はれ^ぬ神^ノ代^ノ女^トも^こ

○ス^サラ^ノ天^照大^神ノ^兄ゴ^極チ^ヤニ^テク^ハチ^ハ女^ト下^石
ニ^住サ^サト^テ出^テ國^ノ内^殿ヲ^オタ^テナ^サル^時ニ^ワア^タリ^ハ八^色
雲^カ立^タラ^ハ流^サレ^テオ^ヨミ^サレ^タハ^チヤ

八^色ノ^いつ^とハ^を垣^つる^も先^ハ八^色ノ^垣つ^るも^の八^色ノ^垣つ^るも

そのむきさねむしつふいそくしあやぶまのむらさきさきなむしあ

○ツノイロト云ツハソカノ仁徳天皇ヲオヨソナシタキ

たふもづふ咲やこの花をまもりいままきべしゆくやこはをな

○雑波津ニサクコノ花が 三 サアモウハ春サキチヤト云テコノ花が

しつるなまむし

○ト云ヤウナガサウデアラウ

ぬしつふをかきへら

咲むおおもひつゝおはあざきねさよふしつきのさきまきむて

○咲テアル花ニウツナリト名入テ居ル者ノサテモイラザルコワイ身ニ

心勞ナコトノテケテクルモヒラスニサ

しつるなむし

くもはくしつふひておしあきさきさきまきむて

けしつふふくしつるなむし

あしあしつるなむし

○けがへあと云ハそまらタムトニ云テ 物ニタトナドモセヌモノヤソレニ

け咲をニト云まらカゾへちニ出シタハ トウ云心ヤヤラガテガイカヌ 五番

ノ冬コトウタト云照出シタカサ けがへらニハ叶ウデアラウ

みつあをなむし

君^{ガイ}ツノイロト云ツハソカノ仁徳天皇ヲオヨソナシタキ

○オマヘガ弁別^ニ起^ニテイナシツタナラワハカカラ ちしつるなむし

ゴトニ消レヤウニモ^{マコト}ノタテルデカチアラウ 妻ハ一本妻ガシラシ
ト^{マコト}ノカハバ

こまに物ヤもねましくしてさかぢがやうおねむあつてやう
ふりよしけまよくかまうとさしんぞ

○けたまえちト云ハ 物ニナグエテモ物ヲウナト云ヤウニヨダラニヤガ
け君ニサト云ちハヨウ叶ウタトモ見エヨ

あしちめのおやのふこねまもごもりのせともあつて姉ふあもて
○養^{カヒコ}蠶ノ^コニ^コモツテアルヤウニ^一親ノ^ニサトニ^ニ居テ外ハ^ハ又娘ナシバ
ドウモエアハイテサテモく^シキナリカナ
わやうねるやるとにをかちふぶくむ

○けヤウナ哥カ^ハけナスラヘチト云ニハ叶ウデアラウカ
よつふいぬと

コガ^ハ慈^ハと^ハい^ハむ^ハと^ハし^ハき^ハト^ハい^ハむ^ハ海^ハ乃^ハ溪^ハの^ハま^ハと^ハい^ハふ^ハつ^ハと^ハも^ハ
○冬^ハに^ハ海^ハ濱^ハノ^ハ砂^ハノ^ハ数^ハヨ^ハニ^ハク^ハト^ハ云^ハテ^ハモ^ハカ^ハガ^ハチ^ハノ^ハ枝^ハハ^ハヨ^ハニ^ハク^ハサ^ハシ^ハイ

こまによろづ乃草本をきごものふはしてむをんぞん
けし^ハい^ハか^ハく^ハと^ハい^ハむ^ハと^ハい^ハむ^ハね^ハま^ハし^ハら^ハと^ハい^ハむ^ハと^ハい^ハむ^ハの^ハま^ハと^ハい^ハむ^ハと^ハい^ハむ^ハ
し^ハや^ハう^ハな^ハん^ハば^ハも^ハあ^ハさ^ハめ^ハを^ハり^ハて^ハお^ハね^ハと^ハい^ハむ^ハ

○け^ハ冬^ハへ^ハち^ハト^ハ云^ハハ^ハイ^ハと^ハく^ハノ^ハ草^ハ木^ハヤ^ハも^ハケ^ハダ^ハモ^ハノ^ハト^ハ云^ハセ^ハテ^ハ思^ハフ^ハ心^ハラ^ハ見^ハセ^ハタ^ハモ^ハノ
チ^ハヤ^ハツ^ハレ^ハい^ハけ^ハガ^ハ慈^ハハ^ハト^ハ云^ハち^ハカ^ハク^ハタ^ハ取^ハガ^ハサ^ハイ^ハ冬^ハへ^ハち^ハハ^ハ物^ハニ^ハテ^ハ云^ハテ^ハア^ハラ^ハハ^ハニ^ハ云^ハハ
ヌ^ハヤ^ハニ^ハヨ^ハウ^ハテ^ハカ^ハク^ハタ^ハ取^ハガ^ハサ^ハイ^ハ冬^ハへ^ハち^ハハ^ハ物^ハニ^ハテ^ハ云^ハテ^ハア^ハラ^ハハ^ハニ^ハ云^ハハ

しんがねー

あまのこを海をて沖あつてはまのいさふらんむらむある

○けいこはとくは代ラホネテもやう神へ申スヤヤ こと此殿下
云うハドウモイヒとトハサスエヌテイキヤ

ま白おふさねつはくも代をいさふらんむらむ
こまのやまこーかまのいさふらんむらむ
しんがねー

○コレドクガイトとト云ハスコレウデモアラカマアテイテラとトク
タイロニ分レウハドウモサウハワケラヌコトニシザル

今世のあつらひつき人ふらん花おぬりふらんむらむ

そらねきあしこのこいそまは

○サテ今世中ハ人ハ心ガ花ぐレイニツイテ リキニツタカラシテ アダ
ナキツトセヌあバカリデケルニヨツテ

つらこのこいもあつらひも色おぬらんむらむ
あやのこいも花もきほふらむらむ

○大切ナアガ 色ヲシノ家ノ 木の ナイニヨウゴトニツテカイトコロハ
花き アラシテガサレヌヤウニオテシマウタ

そのまのあはれおむをぬはべくなむあはぬ

○ホニタイトコロヲオウテ見レバカウアラウコトデハサナイ
いふらんむらむあまのこい

ふんては先しそあふつけつてさばもてまうじしめ給ふ

○昔は代々天子御が春花秋月夜ト云時ハイツデモツメテ

居あつた衆うは前へテナゲレカレテハもう上ルヤウニ作付ラレタ

ゆは花をこふててあふりあきとて流ふまどひあは八月をさまきと志

ふべりまきふふいどねる心はばんばひてさしあふと志し先し給ふ

○サウテ或は花ヲ見名名フテヨリツキモチ取ナドマテ後子マツテルヤリ

或月ニ執心シテ見ニ行テハマダ去ヌキヤ入テシマウタアトヤナド 留イノニ

案内モシラヌ取ラアチスユチラトテアレイタリスルヤウナ風流ナ心ヲソヨシ

タ哥デ考ヘテ流シサレテソヨヨツテアレハカコイ者チヤアレハオロカ

ナ者チヤト云ラハ内存知サレタモヤウチヤ昔ハサ

花をこふててあふりやまきとてさつとひまきとて風流

あふりまきとてさつとひまきとて風流

かしてさかかあふりまきとてさつとひまきとて風流

ててと考へあふりまきとてさつとひまきとて風流

今一つかきとてさつとひまきとてさつとひまきとて風流

をいひてやむいまきとてさつとひまきとて風流

志うゆものもあはれびききさるふとてははをいふけりて君を祿ぐひ

○サテ又サガガリテナニサレ石ニ下ナリ筑波山ツケナリテ 君ヲ祈リヤシ

ト流しびガリトて流しあのみらあはまよ

○又ハ身ニ過タヨロビナル時ヤ心ニアマルホドオモシロイヲノアル時ヤナド

かきししとくさくさなり

○アルハ昨日マデハ繁昌ニテ何ノ思ヒゴトモナカツタ者ガニハカニ不仕合せニ
ナツテナギラシタリ 又モトシタシカツタ中ガソユニナツタリシタトキ

阿ノハ松山の浪をかきお中おあけらる秋萩の下葉をあらう人
あつつきお志き乃もゆけをうご

○或ハ又末ノ松山ノ浪ヤ野中ノ清水ヲタトニシタリ 萩ノ下葉ヲチガ
メタリ 曉ノ時ノ羽根ガキスル救ヲカスヘタリ

阿ノハくさくさのうねふーげ人ーいひよーお川をひきこてせ
の中をうーとまきつふ

○或ハ作ぬ身ノウイヨウ入ニナシ 吾れ川ヲタトニ引テ世中ヲ恨ニタリ

きつふふとつる瀬次の文とらひうねをどいぐ

今いぬしお山もりうりあやばあしねがの橋と造りおりとき
く入るおにのそぞんをたぐさめをる

○又今テハモウ富士山モ煙ノタ、ヌヤウニナリ 長柄ノ橋モ又新シウ公末
タトはス人ナドハ別ハッシテオヨムハツカリテサ心ヲハラシタチヤツイ

はらうを盡くとそとる流ハむがとしもー盡るれどはきぬ
ちりとこそしはなをわるといもびこを雅玄のうねを定まぬ橋へ

いよーふりかくはらうちあもわのゆ時とそをあらうりあを
おかのおんよやあけらる流をまらーをーおわりをむ

○スツト昔カラ右をり信ハツテキタチニ奈良ノ時代カラ別ハッシテヒロツタワ

イ 其の時代ニ定テ哥ノワケヲヨウは存知デアツタモノデカナアラウ
かのおろんぬいおあきみ川乃々々ゆう記のもやれ人ナクはな
んまれどどらとなりき

○その世ニ正三位柿本ノ人磨ハ哥ノ聖人デサアツタワイ
あまハ悉くも人と君を何とせりとりつぬべし

○コレハコトニ君臣合躰ト云モノデアラウ
秋乃ゆきをえ田門イーぬがもみぢをばみくどの侍目糸綿と
え好ひ春れあーと若せ山乃ゆきハ人まはがらうハ
やうしこのえたりんおあえとあ

○秋ユフクレニ立田川ニ流レルお糸ヲハツ奈良ノ帝ノ侍目ニ錦ヤウ言候ナサレ

春ノ初吉也山ノ樹ヲ人磨ノ心ニ雲カトハツカリサマハレタワイ

又山のべりゆき人々ノ人有らるるあやしくゆきりきり

○又山人ノ赤人ト云人がアツタワイ コレモ哥ニ妙チ名人デアツタワイ
人まらちゆき人がみふくむくかこくゆきむとハ人まはがら
まらちゆきむくかこくゆきむとハ

○人マロハ赤人ノ上ニタウハナリニクカラウニ 赤人ハ人マロ下ヘオキニツイ
クラ井ナコトデサアツタワイ

なまみまや乃ゆき

あつて川お糸みされはゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
人まら

トウテニホヒノサウテアルヤウナ

月やあゝぬまやいしほまぬぬまがごんぬまもくはなや
大くは月をもてしこれぞあはれの色は人乃おいと那家もの
祢ぬおれまをそくねはら先づやそくねあもぬりま
ゆんをれやそむでいおとづらぬくもてそのまみおもむ
もあきら乃よきぬまごんぐあ

○文室康秀ハ何ハ多クミテその躰ガワノ何ト相違セヌイハハアキンド
エイキル物ヲ著タヤウナモノチヤ

吹くふせべの葉おれをれはうぶ山風をうらとらうむ
ゆまれみうどの清い心よ

景源きかきこは若小親とてて日けふまてはふふやいあ
宇治山乃傍きせんちあはばうそふてそをいあをりあ
なはれも秋の月減るふゆのまのそふあふがごと

○宇治山乃傍書撰ハ何ガオクフカウナソレテ始トハテトウリアヒガソカ
トセヌイハハ秋月ヲ見ルニ曉ノ雲ノテキタヤウナモノチヤ

コウ名ハこのよのまをむむせびうがふ人さうま
よんくうこおやくはし秘むかこをかよふてしよくま

○け人ハヨダ哥ガ多ウハ付ハラヌニヨウテアレヤユヤラヌ入スガナラ
子ハトクトハレレヌ

をのこまらひあゆのそとやひ先の流るりたれまやう

ナドノゴトクニタヒトアルケドモ 皆自分ニ哥ヲヤト思ウテ居ルカカリテ
實ニ哥ト云モクハニヤウスヲバ知ラヌモノチヤト云エル

かく語りし方とて、然る所先は、いふ事ありしは、いふ
のときこそ、はうなりふおむちりぬる

○サテ右ノ每リデアラ多上ヨロニ 伊當代上極ノ天下ヲ治メサセラレノ
モ今年テ九年ニサナルガ

ある所もいふらんうらなひの浪やいぬのちうまでなぐれむらぬ
おらん先ぐもれうまはくも い 山 い おもやうりもさぶくおがしはして
○ドコカラドコマテモモレタ取ノナイハ慈悲ガ日本ノ外ニテイキワツテイツク
ノウラマデモミナソノ おカケ 内蔵ヲカウムラヌ者ハナイ難有イ時節ノデ

よはづのようつりあはしはきこしとていふおもらうくは
うまはきこしとていふおもらうに

○イロクノ内政事ヲトリ行ハセラル、内ヒ多くニ 其外ノ一切ノ事ニテラ
ハステアツバサレヌアメリニ

いふしハ内政事ヲモ忘アツバサルニ一年又ウナツタ事ヲモ取立アツ
として今と云を照ハシ後の事もはくこつとて

○古アツタ事ヲモ忘アツバサルニ一年又ウナツタ事ヲモ取立アツ
ハサウト云云名デ 今モ伊勢控バサレ又後々へモ傳バト思名テ

延喜五年に月十八日小大内記きのこととけり伊書はとて治のあ
づらと云のほくゆきゆきのうひ乃さうとさんおふーかふちのみ

○此集ヲ いみじく サテク 結構ナ集キヤト云テ 天十月ヲスルゴトクニ作ギタツト
 ニテ今此世當代ヲシタハヌト云ハルマイワサテ
千秋云いみじくハ後世よりいふに
 まるらけ延喜の時代とせり

古今和歌集卷第一巻終

春秋上

ゆきとふきとらきの日とぬき

左京元方

年けうちふきふきにらととせはととやいふまじにやいふ
 ○年、内ニ春ガキタワイ コレノ 同ニ年内ヲ去年「云々モノデアラ
 ウカ ヤウハリコトニト云々モデアラウカ

まらちちきり日よめ 紀貫之

神ひらてむとびしあはるまふはまらうふ乃風やどくらひ
 ○袖ヲヌラヒテスウ水ノコホニナルヲ 去々今月ノ風ガフイテトカス

テアラウカ

歌あしは

よき人しらむ

まなほもてらやうびとみよりせけらうの山ふち八廻りけ

○春がキテ辰ノ多ツタハドドコヤヅスバ吉野山ニハマダ雪ガフルテ
ナカクモクネキハスエヌガ

二條后はま乃そめはら

おはらち小春ハ事ふるうぐいもれこやまる後ひやとくはせ

○冬雪ツモツテアル如ク春ガキタコトコトハ雪ノ氷ツタ後モモウトケルテアラウカ
別一しらむ

梅がえにきあううぐいもをまかりておなとといまじこち八廻りけ

○梅ノ枝ヘキテ居ル者ハハヤ鳴ケレバマダハヤウニ春マデカケテ雪ガフツ

テ春ノヤウニモナイ 雪加まどもまかりていよこち八廻りけ

おはらち小春ハ事ふるうぐいもれこやまる後ひやとくはせ

素性法師

まなほもてらやうびとみよりせけらうの山ふち八廻りけ

○まなほもてらやうびとみよりせけらうの山ふち八廻りけ

歌あしは

よき人しらむ

まなほもてらやうびとみよりせけらうの山ふち八廻りけ

○トウカラ花ノウチ けう思ヒコトニ居ルガソレユエヤヤラテ 素ニツタエバ
ソノマ 素ニツタエバ

○巻後

○廿三

此方古くつゆゆきバ三の句をりらるるゆづりらるるれをみや
おまじけ横方紫ふまゝゆづを此集のしらふゆづりらるるを
あけを耳のしぬふら色をとりまのまづらうもこの後の人のかき
のほくらのさかいらふ改えくもゆづりらるるゆづりらるるゆづり
てハ結のらむとかきゆひあしされば結を一本ふつららるとゆづ
もゆづりかまあひを思ひて改えくもゆづりらるるゆづりらるるゆづり

ゆづりのいささけのあまきおあひまうちきこゆづりらるる

二條后れさうふのみやまむねときこえりらるる時二月三日

康秀が 康秀 おまじけ小結してあやせでゆづあひごふ日へてゆづりらるるを

の 康秀 かりにかりかるとゆづをよめをゆづりらるる

ぬんやのやまひで

まれば日乃いりふあくるあまきとかりらるるゆづりらるるゆづりらるる

○此方ノ春日先やうチ難有イハ惠ヲ蒙リマス私デゴザリマス年ヨリ

マシテカサニ頭ガ雪ニナリマスハサ難ニ存マスユマシテ物デゴザリマス

おまじけゆづりらるるゆづりらるるゆづりらるるゆづりらるる

・後ゆづりらるるゆづりらるるゆづりらるるゆづりらるるゆづりらるる

○后ガツツテ木トモノコノ毛張生ル春ノコロハヤウニ雪ガフバ花ノナイ里

ニモヤ 花ガ千ルワイトニ下花トスエル

まのこあふまめ ぬづらうゆづりらるるゆづりらるる

まのこあふまめ ぬづらうゆづりらるるゆづりらるるゆづりらるる

テサ考ガナク

。子林云。下白。ものうか。るき。わ。ぞ。その。の。なく。と。い。ま。こ。て。ぞ。も。ど。い。ま。の。う。る。後。へ。く。ま。り。て。ふ。を。い。し。此。れ。お。や。し。

歌云々

よみ人

ゆづらうくぬわーをきばうづひものぬくちるあひねあききく

○ワ六野へ近イ本エマラシテ井バ号ガヨリ鳴テ毎日アサカラキマス

まりやハハふまなやきとま茶のつちもまれアしぬとあしれり

○は春日野ヲ今日ハ焼テクレヨ三妻モ来テアツテ居ルモキテ遊テ居ルホドニ

かまがゆのきぶ火のゆさぞしてんよいまにくうけりてこるみはとてむ

○はま日ヤノ飛火セノ番人ヨ出テヤウスラニテクレイソチハ此也ニ住テ居バ

タイカイ知レテアラウカ マウクカガリアツテカラ 若菜ラツ三ハ来ウツ

みふいハね乃雷だよきえねくふまやことをおへ乃ねうねつこまり

○山ニハアレ若サヘマダキエズニアツテ 松ナドモ自ウえエルニ 京ハヤツキリト春

メイテ 野ヘン人ガテ、 若菜ラツムワイ

あづさうあしをぬりふゆりぬぬ日さくあしバこくねほみそむ

○一オシナメテドモカモ 若ぬガマツ今日ハスツタガ アスマ日スツタエバホ

ホカ多若菜カツル、クラキニナテアラウホドニ 押へ出テ 若菜ラツマウツ

仁和のみくぢみふおまーくくろりぬり人ふこり

ねほひらもゆら

美グーあまねゆふゆしわうまほきしこごころもでふ若ハゆりつ

○フコモトへ進セウト存ジテ 野へ出テ 若菜ラツタガ 村ノ外寒イコテ

袖へ若ガフリカツテ サテくナギラ 故テツタ若菜テゴザル

傳正遍昭

あさみどり糸よるしかなきあしを玉やぬき家を乃やまどり

○アノ折ヲ見レバ ウスモキ色ノ糸ヲヨツテカケテ キレイナ白イ糸ヲアト

至ニシテツナイデ サテモく見ヨナ春ノ柳カナ 鮎村ヨリ

野——りぞ

よき人——りぞ

あさみどり糸よるしかなきあしを玉やぬき家を乃やまどり

○昔ヤナヤカヤもウオモシロウサヘル春ハ 物デニ土モカモ 改マツテアタラシウ

ナルケレバ オレが身バカリハサ 昔ノクルタビニダテトフルウナツテイク

をさくららのあけきもあしぬの中おやつりぬとよこそりうね

○アチモコキモ 業内モシラ又山中ニナキヤカ呼子鳥ガナイテ人ヲヨブガトコキヤ

ヤラサテくアツカリトシレヌトカナ

あしを玉やぬき家を乃やまどり

えは内解恒

あさみどり糸よるしかなきあしを玉やぬき家を乃やまどり

○昔ニナツタレバ アレ雁ガカヘルワ 居ハアヤウニ ソラヲトニテ 北ノ方ヘテキヤガ

コハヨイトコロデ ユキアフタ コトツケラヒテヤラウカヨ

かゝるる居をとりめ 仔細

あさみどり糸よるしかなきあしを玉やぬき家を乃やまどり

○オツケ花ガサクキヤミア けヤウニ夫ノ履ノタツタラニスステイヌルアノ居ハ

花ト云モノ、昔カラナイ里ニスニナレタカイ ソレデ花ノ面白コヲシラヌデカ

ナアラウ 梅枝花ちき里の院より。

歌よきじ よみ人しらす

そらつとバ神しそふちへう先れむけりやうふらふらぐひをのねく

○梅ノ枝ヲ折タニヨツテソレテ袖ガニホフデコソアレコニ梅ノ花ハアリモセヌニ

ハ袖ノニホフヲ 梅花ガコニアルトモフカテキガ来テ鳴ク おはまころし

色よりもあこそけいれとおもわゆきさう神ぬこしやどの梅どと

○梅ノ花ハ色モヨイガ色ヨリ香ガサナホヨイワイアハレヨイニホヒヤハヤウ

ニヨイニホヒスルハ 夕ガ袖ヲ乙タ此をノ梅花ゾイマア

をどちかく梅乃むうをじけぢきれくま人のあふあやまらんるも

○ムヤクキヤニを近イ取ニ梅ハウエイヅ 花ガサケバよりヨウ白ウデ 待ツ人

ハ来モセヌニソノ人ノ袖ノニホヒニトリチガヘルワア

○千秋云梅うをト花のちかきころくしんはべし。

梅花もあしよりむうりるしーとろし人のどかむるもやうそまきときは

○梅ノ花ノ下ヘチヨツト立ヨツタト云ホドノアガアツカガソレカラ人ノフニヲウツ

ヤウニナ 衣ガ香ニソツタワイ キツイ白ヒナモノヤ

うめはをこめてよけん 赤三條花のおやうちぎこ

常は差りぬふてふう先の雲をりてかぎてを花かくぬやや

○ソウタイ笠ハツムリヤカホヲカクス物ナハ 雲ガ笠ニヌウト云梅ノ花ヲツツテ

吾ガ年ヨツタ形ガカクヒカドウチヤト ツムリヘサシテヌヤウ

歌よきじ 素性は師

よらふのこつとそえーう先乃花あぬを色あをりしけりら

カ、ル、コ、 澁がクモルト云テアラウカ 花ノチリカ、ルト云ト年(テ)後へ塵が
カ、ル、ト云「河が同シ」チヤニツチカウヨシダノチヤゾエ 。ふ秋云どーをへてし
用なきをく、後の手をへてら、ら、ふいん、く、ふ、り、く、さ、を、け、ら、う、く、
俳諧、終り、り、い、い、き、き、あ、あ、る、る、や、

イハノをニ
や、り、り、く、さ、を、く、梅のさのちり、る、を、よ、ま、る、

栗く

く、く、と、く、く、と、先、く、さ、ぬ、も、れ、を、梅、さ、り、乃、む、あ、う、う、ら、ひ、ぬ、い

○日カクレト云テハ、 夜カアケルト云テハ、イヒテ、ニモ目モナサズニ見テ居ルノニ
此梅ノ花ハ、イツノヒニ、ハヤウニチツテヒ、ウタ、コ、ヤラ

方園、く、つ、ら、ふ、の、洗、ゆ、く、ふ、り、あ、り、
。ふ秋云、い、初、め、の、二、つ、の、い、ハ、と、て、の
こ、な、り、興、り、ハ、あ、る、べ、

寛平、は、つ、き、さ、の、ま、れ、を、合、は、す、、よ、み、人、を、い、ら、す、

梅、よ、を、神、ふ、ら、り、し、て、と、め、て、を、ま、16、ハ、さ、く、と、も、か、く、こ、め、く、ら、し
○梅ノニホヒラ 袖ウツシテトメテオイタナラバ、ま、は、こ、テ、ヒ、ウ、タ、ト、云、テ、モ、ソ、レ
ガ春ノ形見デアラウニ

素性は原

ち、は、い、て、い、く、べ、き、も、の、ぬ、ら、ぬ、を、う、く、あ、ひ、乃、神、ふ、と、あ、と、
○アチウタワトバカリ、足、テ、ウ、ラ、ブ、デ、ア、ラ、ウ、コ、ガ、ヤ、ニ、ヒ、ウ、チ、コ、ヤ、白、は、袖、へ
コツタ、コ、ヒ、ド、ウ、モ、あ、タ、梅、ノ、花、ノ、、コ、ガ、ワ、ス、レ、ラ、ヌ

野、あ、る、べ、
よ、ま、び、く、ら、あ、

ち、り、ぬ、く、も、あ、を、い、ふ、の、こ、を、梅、乃、花、意、き、は、の、思、ひ、知、り、せ、し、
○梅ノ花ヨチツタ、尺、セ、テ、ハ、香、ヲ、ナ、リ、ト、モ、ノ、コ、ヒ、テ、オ、ケ、ソ、レ、、後、ニ、意、シ、イ、ト

きくと思ヒタレサニセウ

人のあかりうきなりを 桜の花きぬとど先くらし
をんてしうえり けしゆ

あししきまりをひらけむらとていふはあふびぎしうむ

○春ハサク物チヤト云テ外ノ橋ニナラウテ 今年カラ始メテ知テ 咲タハサクラ

花ヨ ドウツキルト云テバ ホカノ橋ニナラハヌカヨイゾヨ

野——らん よみ人ちしき

山とこ人もさきぬけくをぬけくぬびをぬえたまきむ

○山カ高サニコハ誰モ来テ見テ 賞就スル人モナイ此橋花ヨ 人カシヤウ
クワセヌトテ アテリウラウ思ウチイ オレガ尼ハヤヒテヤラウホドニ

又も里とやこ人もさきぬ山さく

ひさしくわがふふとさきぬまかるとさきぬ尾りしとさきぬかきつ

○山ノ橋ヲオレガカウ見ニクレバ 震ガ一メンドコモカモ立テカクシテ花ヲ
見セヌワイ サテモイザンワレハ橋カナ

深殿后乃おまへり 花が先ふ橋のむをけしせはく

ふとさきしゆり ちかきやねおやふさうちきこ

今年ゆきバよりひまかいぬまうハあまどむをいんまバお思ひもあし

○年救ラ極マシタレバワ多モイカウ年ハヨリマシタガ サリナカラ アナタハ
昌ナサルハ内殿デカヤウニ花ヲ見マスバナニモ物思モゴザリマセヌ

なうぎさのむさしゆりふさしゆり

左系業家新札

世中ふもえてさくはあうりせば春のあはれはのどきかきまう。

○イツク世中ニト下橋ト云物ガナイナラバ ケツク春ノジブジバノドカタ

ヲウニ橋ト云物ガアルデ ハヤウニツト心ガサワツイテモモノドカニオモハヌ

歌一らぞ

よみ人あつた

るそ一隊もあはれくとしがねさくむもあてももむえぬ人乃しめ

○岩ノウラハシルは早イ川ガナケレバヨイニソシラ内ニ居テ エ見ヌ人ノタタニ

アル川ノアチラナ 橋ノ枝ヲ折テキテア ニヤゲニ持テイナウモノヲ

川ガアルデドウエヲリニイカレヌ

心乃さくしをさそよあゝ そせんは解

るそ一のや人ふうしそし橋をみおとふをりてあつとふせむ

○カウニテアルヌナ十橋をうえテ 人ニタハ嘶入バカリテオカウーカイ

ソレハヒタカヒガナイホトニ キニテ折テ来テ持テイニテ内へニヤゲニセウ

心ざかりふもあはれやアとしらえ

る後さバ柳さくしをさあせてみやろそをたおきたりり

○此山ノ上カラカウえ液セバ 柳ノ青イ色ト 橋花ノ白イ色トヲ コキマセテ

ト下錦トスエルハ 尼ワタタトコロノ 京ノキキガ 春ノ錦ト云モノヤワイ

はくしあまのもくあてとーはあめしーはるを記てよめあ

きみととのう

後ともも田じむーふさくらめど年あう人をゆーとありま

○梅ハアヤウニ色モ香モイツノ年モ同シト昔ノトホリニサクケレ厄年
 ラ経タ人ハサコレトホリニ若イ時トハ大キニカハツタロイ けあニのウラ
 ラ免どつひアハいさしうかまひがふれやうぬを梅をさるい
 ちむとてちひふりたまゆ ふれやうぬを梅をさるい
 とをさるいふれやうぬを梅をさるい

○此^五梅ノアツタ山ハサダメテ展ガ立テカクテ知^三ヒクカラウニタレガ
 ア^二タニダヘテイテ折テキターゾ
 ちまねとわやせし梅しあふまふくもてまら
 梅をさるいふれやうぬを梅をさるい

○梅モモサイタサウナワイニア キーイ アノ山ノアヒダカラ白イ雲ノスエルハ

寛平はあまきいめはたうなはら 友のうら

○吉野山ノアタリニ咲テアル梅花ヲ見レバ トトトッ 雪ヂヤナイカトリ
 チガヘラレルワイ

やうひーううふ月はあきらとーよみら
 いせ

○梅花ヨ イツモノ年ハ早ウラル成 セテ春二月加^ハツテ長イ今年ガカリナリ成
 人心ニタシニスルホドユルリトヌテアツタガヨイニ ナ世ニイツモト同シヤウニ今年モ

早ウキルゾイ 此は白のてふまは、一様く例多し。河の虫のまふ出せり
いし。 おは、いひがぬあ〜して、いふ好らまこときこりかぐんじ。
さら〜れ花乃らうらふおぢ〜とどは、さうらうらふのまこ
つとま〜り、い〜り、よ〜り、と〜みく〜らん

けさかりしうらふ〜と〜ゆ〜き様、お年によれあ〜るもまらきろ

○桜花ハアダナ物ヂヤト名ニコソタウテアレ ナカクアダナ物デハゴザラマ 一年ノ
内ニモタラナラテハ、お子テトサレヌラサへキドクニ今日マデテ今ラズニ待テ居タ
ワイノ スヤ久とらゑ子テトサヌキ様ノアタナ心ヨリハ桜ガハルカマシギヤ

この一し けり印〜れ新辰
まのふこぎ^は昨日ハ、おとどぬら〜る^は清をハ、あ〜とも花とえま^はや

○雪ヲヤトコソスヤウケレ モトノ花トハ、足ヤウカヤ
ワシガ今日ノ糸ワタレハ、コソ アノ桜ヲ花ヂヤ〜ハスレ モシ今日ノ糸ラヌバ明日ハ
モウ雪ニナツテ降テニウテアラウ タトヒソノ雪ニナツタノガ 消ズニハアウタテモ
雪ヂヤトコソスヤウケレ

早ウ今日ノ内ニコウ折ウナレ 明日ハモウチルデアアラウ
○桜花ハチウテニウテカラハ、ナレボスタウ虫フテモ、ソフセニナイモウヲ 折ルナラ

○此桜ガアメリヌウサニ一枝折テヌヤウカト思ヘド 折テ取ルハ、イカニシテモマア

惜イヤウチ物カナサテクナトセウグイヤク折ル六惜イナヤニトヤハ木
ノ下デ宿ヲカウテ居テ 散ルニテハワノミ、テヌヤウ

まじわりをよと

桜色にあらるといぬくほそきむ花乃ちらんとほそき後の形見ふ

○花ハオツケ敷テシムウアラウフノ後ノ形見ニキル物ヲ桜色ニコウ染

テ着ヤウグ ○千枚云びさくをよとせうはうと桜の色をよとせうはうと

ころころけむ乃さけつとさくさく減るふまうでさくさく

はくよよまてさくさくきき みつり

ふみちをよと花えんがてふまう人をよと花えんがてふまう

○コチン系ヲ見ガテラニ女子ヲクルハ花えんがテラコトハ 花ガチウタラモウ

新ハスミイギヤニヨツテ 交テシウタ後ニサ其人ガ志シカラウ

亭子院のうゑのゆりかた

仔細

見ぬ人も形さくさくやみゆかきふほろ此交ぬむほろさくさく

○来テ見ル人モナイ山里ノ桜花ハヨソホカノ花ガニシテ交テシマウテ後

ニササカウコトギヤニ 今ハドコニモ沢山ニ花ハアルギヤニヨツテソトテ遠イ

山里ナドハ誰モスニクル人モナイギヤガ ホカノ野ノ花ガモウヤイジブニナウ

テカラ嘆タライヤトモ遠イ野デモスニクルデアアラウワサ

古今和歌集卷第二 春歌

春歌下

野らるる

よとく人あはれ

まがもともあはれむくはらさるるまうららひやをうらむゆく

○庭ガタビイテま庭へ色ノウウテ見ユル山ノ栲花ガチラ

ウトテヤラニ庭ノ色ガカウテキタ

まてといふあらしでいさむあはれ何とあはれに思ひまはる

○チリカツタ栲ニ向テニバラクチラス待テク下ニテウハレテソレバニデモ

チラス留ル物ナラ何ヲ栲ヨリニサツタ物ギヤトハ思ハツゾソレハモ世中ニ栲ヨリ

ニサツタ物ハアルマニ惜イソニ早ウケルバツカリガアツタラ栲ノキズチヤ

のこりかきくちりまであでしに栲をりそよの中くそよのうらとば

○ワレウチウテウヅクト妙ツテアラウヨリサスリト妙リナニ早ウ友テニマ

ウクガサアニケツカウチクヤ栲花ハ世中ニモハツタ何ニモ長

ウアバカチラスニマイチガワレイ物ナレバサ

け里ニいふび栲一ぬべー栲をちりけよがひふあはれとよんで

○コヨヒハ此里テトニラウイヂヤけヤウニオモロイ栲花ノチルニキレニ内へ

イヌルコラバ思ヒダサズニサ

うらむまはれあらしもあらしの花さるるゆくと見しまふうらむあはれ

○栲をハサ咲タワト思ラタウチニハヤカタニ方カラ友テニウタワイ人間ノ

一生ノアヒダハナラモナイ物ギヤガソレニアヨウ似タコカナ

傍に遍照^りよみ^ておろりまほ

あま^くおほみ^と

桜糸ら^らふら^らかむ^ちび^とし^な人^乃ま^もえ^ぬく^ふ

○遍照^所が大方此花ヲ見ニ^まテ^クレ^ル、^テア^ラウ^ト思^テ毎^日く^マ
テドモ^スエ^ヌク^クデ^スエ^ヌカラ^ハモ^ウ大^方ス^エヌ^ノア^ラウ^スト^モイ^ウ
様をヨ^クル^トテ^テ手^ニ交^テテ^マサ^キス^ニア^ウト^ニ在^留ノ^人カ^来テ^ス
モ^セヌ^ニカ^ヤウ^ニヨ^シ故^ル目^ニカ^ケル^上

カヤウニヨ^シ故^ル目^ニカ^ケル^上
カヤウニヨ^シ故^ル目^ニカ^ケル^上

桜ら^らむの^とし^はま^まぬ^がち^もあ^らう^しき^えう^しふ^く

○桜花ノ^チル^眼ヘ^キテ^スレ^バ時^ぞハ^春デア^リチ^ガラ 雪^ガチ^クト^フ

ツ^テキ^ニハ^キエ^ニク^イ 春^ノ者^ハソ^ノ消^ル物^キヤ^ニコ^レハ^正ノ^者テ^キイ^様
ナ^ギヤ^ニヨ^ウテ^キ お秋^ニ初^ニ白^ハハ^サク^ハもの^ちと^うう^しく^して^おも^と。

桜の^花乃^ちら^りは^らう^成ア^ンテ^しよ^うと^モス
と^せい^ちり^し

ふ^らら^ら風^のや^どり^かぬ^もう^まと^もあ^まと^もよ^きて^おむ

○サ^テモ^クア^ウタ^ラ花^ヲハ^ヤウ^ニキ^ラス^風ガ^逗留^ニテ^居ル^所ハ^名ブ
ハ^知テ^居ル^者ガ^アラ^ウ 誰^ガ知^テ居^ルグ^オレ^ニ教^ヘテ^スイ^ソコ^ヘ行^テ
テ^ゾブ^ニ眼^ミライ^分ウ

ら^んかん^ちて^は桜^のか^をよ^める

待^タ様モ ハヤヒヤウニウツロウテニウタワシ

東宮の雅院あてさくら花乃みうらみふちりて

なむれうをふてよあま ほどがけ高世

枝よりもつふちりふしむるれはちりてもあのおことごとくをね

○水ノ上へチツテ流レル桜花ガアレトツト沫ノヤウニスエル枝カラモモロウヌタ

をチヤニヨツテ 下^タ落^テモ又日クアノヤウニモロイ水ノ沫ニサナルチヤワ

桜のむれちりうをよあま ほどがけ高世

お^はけ^はさ^らび^やハ^あめ^ぬ桜^をス^るあ^まさ^らり^てあ^げを^なす

○トテモハヤウニ早ウチルクラ井エバ一回ニ白テカラサカヌカヨイニナセニサカズニハ

井ヌク桜をハヒヤウニ早ウヌテハ 又テ居止テモカサウトシテオチツカヌ

おはさくらあまの候にし物ぞやし此河はいづとも右の澤のこ
を以てしんぎし例を考へ合せて味ぶし。

桜のおくくちりぬらぬと人のしひんをよあま

いづれ花よくちりぬらぬと人もやしぬらぬを風と吹あめぬ

○オレハ桜花ハ早ウチル物チヤ庄思ハレヌソレヨリハ人心ガサアタナモノチヤ

ナセト云ニ 桜ニダ風ガフカ子バメツタニチリモセヌカ人ハ心ハ風ノ吹マデモ

マダズニ早ウウウル物チヤワサテ 竹林下白の滝コウ

いづれあまのちりぬらぬと きれぬ友のり

おきかこのひるこのどきねまの月ふをいふたうとあけらうと

○日ノ光ノドカナユリトヒタチニヒヤニドウニテ花ハ此ヤウニ

サワノト心せワキルコトヤラ

春はるふれはるちはるちはるのはるちはるんはるぞはるしはるさはるくはるれはるむはるのはるちはる

はるはるちはるちはる

春はるふれはるちはるちはる

まき風ハむのあふりをよきまておけらうづうやうらうらとるむ

○まき風ハ花ノ実テアルアタリヲヨケテフケモレ風ハカイデモ花ハジ

ブンノ心カラヒトリデニモチルモノカトタメシテスヤウニ

まきまきのまきちまきちまきとまきあまきくまき 元はる内はるみはるつはる絲

まきまきのまきちまきちまきとまきあまきくまきとまきうまき風まきのまきちまきちまきらまきらまきむ

○サクラ花ハヒトリデニモヒタスヒタスラヒタスちヒタスちヒタスヤウニフルモノヲソサソサヘアルニソサダ

ハエトノヤウニキレトエトデ風ハフクコトヤラ

初はつえはつふはつのはつちはつりはつてはつかはつりはつすはつうはつではつきはつくはつとはつあはつる

はつはつちはつちはつ

ひひらひみひアひスひくひわひがひくひしひくひをひおひ風ひとひんひふひすひうひとひなひらひり

○アノ橋ノアル形へ行テ見テ折折タカツタケレ折山山カ高サニエノボライデ

少少念念トガラオレハヨソニヌイヨソクヨソ来来タニ風ハアノ橋ヲ心心カセニスルデ

アラウトヨハレル 竹竹杖杖山山ち山み山の山後山と山あ山く山

折はつしはつらはつび

大はつなはつらはつ後はつね

まきまきのまきちまきちまきとまきあまきくまきとまきうまき風まきのまきちまきちまきらまきらまきむ

○橋はしノチルラ惜おぼテヌ人おぼハナケレバ 此こヤウニこはこまこまこるこノフルハ 世よろよろよくよ

ノ橋はしヲラレニテ渡わたクナミガカイ

亭子院、あゝ会はるゝ けしゆき

様むらりぬゝ風のなごりやをなむねきこやふ浪をむらりぬ

○桜ノチル時ニ風が吹タテ、其花がバラク中^中テサワグケシキハ、テウド

浪ノタツケシキヤソシテ海ベニナゴリト云フガアル其ナゴリハ浪ガタツキヤガ

花ヲキラタ此風ノアトノゴリハ、あ^あアリモセヌヤニサ浪ガタツワイ

な〜はみくやのゆりや

ゆりやゆりやなりや〜あのみやらあも色はうり〜びむひんをうり

○フルイ昔の都ニナツテシウタハ奈良ノ京ニモヤツリ色ハ昔ニカハラ

ズ都デアツタ時トホリニ花ハサイタワイ

よの〜〜〜〜あ〜 よ〜みはむのき〜

むの色ハ庭ふこをてしんをばともあをぶふぬとあまの山風

○花ノ色ヲバ庭ノ中ニコメテオイトスセスルセテソノ香ヲトリトモ霞

ノ中カラヌスミタシテキテコハモニホハセイ 春ノアノ山ノ風ヨコヤ

花葉のまきまきのまけあひのあ まの性はほけ

花のなもいさハばり〜色トま〜ま〜ばり〜色ハ人〜ひまり

○花ノ咲ク木モモウ今カラハ、ホツテキテウエニイ 春ニハ花が咲テ

早ウウツロウ色ヲスナラウテ人ノ心モウツロヒヤスナルワイ

あ〜〜〜あ〜 よ〜み〜〜〜あ〜

まの色はけ〜あ〜〜ぬ里あ〜じ〜あ〜ち〜ぎらむの〜あ〜む

○春ノ色ハドコモカモヒラニイナバ、イキワ名多里トイキワラヌ里トノ

ワケガテハアルイニドウエーデ 花ハ咲タ野トサカ又野トガアルヤラ

まはれしこころよきさ づしゆ

三輪山をまうとかくはうまき人よあまね花やうくらむ

○サテく三輪山ハキツウカスダカナ カガ ハヤウニアア辰ノ隠スハ此山

ニ人ニシラサマナイヨウ 花ガアルカニラヌ

うつらんぬんのみとほしお花をふきこころや

つふまかりりあふり こそせん

つぎりよまきのよぶよゆじアうむらまらばなをのむの法クハ

○ドレヤケフハロククルレデモ イマノ山 ヲカケアルイテアツバツソ 日カクヒタ

トテモ 花ノ陰カササウナカイ イクラモ花を陰カアバ モ暮夕チラ サイハヒヂヤ

花カゲニトミラウワサテ

ちげハたハなうてげハ何げくおやく

つづねく お父だげの尻よりーくもまばりふらふら

またのあまをうとを

いつまじりやぶふん乃らくぐまむ花ーちびばふまもぬべし

○花ガチラズバイツマデハヤセニ心ガウカレテ居ルデアラウモシ花

ガチラズニアツトラバ 千年デモハヤセテタテウヤウニ思ハレル

野ーらば

よみびくーら

身ごふ花の片りハありあめどけいんむくハ命下なんらむ

○花ハ今年チツテモ 又来年カラ後モ春ゴトニ盛リハアラウケドモ

ソノ盛リニをテスルハ ユキノ命次チヤワイ ナホ花盛ガ毎年ア

○ダレカサソヒアセテ馬ヲノリオステサツレテドレヤ見ニカダク此等ノ
京ハサゾヤ 雪ノフルヤウニサヒタクト花ハチルデアラウワイ

ちよみむをたうふううーみむせ中ふあももとふうーむおうは

○花ノチツテユクラ 佐ノ眼ノレウズクダ コキガ身トテモ イツデモ 此世ニ
カウシテアラウモノカイ 花ト同ジヤウニ オツケ死ニテヲ物チヤ 花バカ
リヲ早ウキルトテ眼ミヤウヤウハナイ

小野ノ小町

なれ色はうつりふらふらぬいづにまがまよふあやうきせしやう
○エエ、花ノ色ハアレモウウツロワテシマダワイサウ 一度モ見ズニサ ワレハ
ツレツテ居ル男ニツイテ心苦ナリガアツテ 何トニチヤクモナカツタアヒダニ

長雨がフツリナドシテ ツイ花ハアノヤウニア

サふあうとハ男女のあうひさうをいハ男女の中らひのこもを
ととせ中もいさうさうけ糸糸のうにもこまか色はりのせお
ふせごうのきふは氏おれふさしは成さぬあうとらひもこれ
に和乃中おのみやまんごうはあふさ全せんし
らあめふとらるる さうせい

をーとあふむをいさうふうーれるむちるさうふぬきてさうあ
○散テユク花ヲヲイト思フ心ハドウツ糸ニヨル、物ナラヨイニ ツシラソノ
子ル花ヲ一ツく 其糸デツナイデチラヌヤウニトシテオカウニ

志がれ山をえふ女乃あやうくあうりさうふさみてはう

こゝろまひ

ほろゆき

あづき弓をぬれぬがばきりえくれがさもほろゆきをばどきり

○一 春ノコロ山ヲ穢テクレバドウモ道モヨケラレスホド 花カチツテ

クルワイ アノ女等ガサ

寛正御時ききさのまけさ合のこゝ

まのせにこゝろまひとあゆむとあふさばやどひぬ

○い春ノ世テ若菜ヲツウトモテモモラアキラコチラスガウ花

テロカチツム要ユク道ハ下テテモヨウアノモナイ時キタワイコレヤ

心ちふさうでこゝろまひのよめ

うゝ人のこゝろまひのよめ

をどわししその心づふ様しおちあも花がらりき

○春花ノチル時今ニ山ニトツテ 時夕夜ハノ花ヲ惜イノト名フニカ

夏ノウチニモサ花ノチルトバツカリラスルワイ

寛正御時ききさのまけさ合のこゝ

吹風しなれあど一なりとばみ山がらきりををえり

○フキチラス風ト 流レテユク谷川ノ水トガナイモノナラバ 三山ヲクニタテテ

咲テアル花ヲバエヤウモノカイ スラハスイニスレヤ風ヤ川ノ水モ 花ヲタ

メニメツタニワライトバカリテモナイモノチヤ

志加えりかありきりるどこの花ゆり

花のた乃もやふさうしてあがり

くろり 草部

傍正 遍昭

しふんてかてむ人よゆらの花をひまらまねば枝をささめ

○チヨット立ヨツタガカリテ足モるメスニヨツニえテイヌル人ニハヒツウテイ

ナスナ花ヨ タトヒ枝ハ折レルトモ ドウゾハヒツウテトノヨ

かゆり 藤の糸らまゆりきき人乃ゆらとゆりて

んろくをよきく 女つね

かやふんふらねをまうりきき人乃ゆらとゆりて

○コチノをニ咲テアル花ヲ アノヤウニ人がヒツカヘラヒテドウモん

ステイナレヌヤウニヒタスラ兄ガ ドウユツヤニ エイをテモナイニ

野一らじ

くもへとく

いすかきりきいさやうくむいさづあめいさのさね乃山吹の花

○夕チバチ小島ノ崎ノ山吹ノ花ハケフコゴロナニサイタラアラウ

初白とハニつととふやとめ様中しんうん今もしりやまけい

をゆきえあしをるをいけりけくふあきさくあつうー山ゆきを

○此山吹ノ花ワイ 春雨ニヌレテ入一サツタ色モドウモイヌニ 色バカリテ

ナレ一 香マデガ 雨ニヌレテハ別レテシホラレウニホウ

をあまのふちもかきりおのおひもあられをまきりお

山吹ハゆやゆきさねを花をむしうあつむ君がこしひあらくふ

○山吹ハワケタヌ物チヤコシナラサカヌガヨイ 花カヌラニニホウト

思フテ極テオカキツタデアラウ ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

○古より一様ら春トツケテヨミニルガマコトニ月日ガ早ウクツテ矢ラ
イルヤウニ思ハル、春ニツテカラマナラフモモイニサテモ早ウクツタ^カナ
と一^ニ月トヨク^ニハ^ニマ^ニマ^ニトク^ニ年^ニハ^ニ昔^ニの^ニ方^ニハ^ニ明^ニき^ニバ^ニあ^ニる^ニデ^ニ。且
の^ニ昔^ニの^ニ方^ニハ^ニ明^ニき^ニバ^ニあ^ニる^ニデ^ニ。

や^ニし^ニふ^ニさ^ニけ^ニく^ニえ^ニく^ニす^ニき^ニり^ニき^ニは^ニら^ニる^ニ。

つ^ニり^ニき^ニ。

か^ニれ^ニと^ニひ^ニる^ニ花^ニ一^ニ形^ニも^ニば^ニら^ニう^ニづ^ニひ^ニも^ニも^ニを^ニし^ニお^ニろ^ニく^ニけ^ニり^ニぬ^ニア^ニら^ニる^ニ。

○ナ^ニボ^ニ惜^ニテ^ニは^ニテ^ニモ^ニく^ニ花^ニハ^ニ千^ニ夜^ニテ^ニレ^ニウ^ニラ^ニハ^ニタ^ニデ^ニト^ニル^ニ花^ニナ^ニケ^ニレ^ニバ
コレ^ニハ^ニセ^ニラ^ニナ^ニイ^ニナ^ニマ^ニト^ニ思^ニフ^ニテ^ニ昔^ニモ^ニキ^ニヒ^ニハ^ニる^ニキ^ニト^ニモ^ニナ^ニウ^ニナ^ニラ^ニア^ニラ^ニウ^ニサ^ニウ
アリ^ニソ^ニナ^ニク^ニニ^ニ思^ニハ^ニレ^ニソ^ニレ^ニテ^ニス^ニウ^ニナ^ニカ^ニマ^ニチ^ニヤ^ニニ^ニテ^ニ 飽^ニ材^ニト^ニト^ニ

や^ニし^ニの^ニつ^ニご^ニも^ニり^ニの^ニい^ニふ^ニ山^ニと^ニあ^ニえ^ニき^ニふ^ニ山^ニ川^ニり^ニ花
け^ニる^ニが^ニと^ニり^ニる^ニは^ニら^ニる^ニ。 ぬ^ニり^ニや^ニふ^ニ。

け^ニ人^ニハ^ニく^ニふ^ニ婚^ニめ^ニて^ニ出^ニる^ニも^ニハ^ニ姓^ニを^ニけ^ニる^ニも^ニハ^ニ例^ニあ^ニる^ニに^ニ姓^ニを^ニき^ニこ
も^ニい^ニく^ニ又^ニあ^ニは^ニふ^ニけ^ニ名^ニの^ニお^ニを^ニ皆^ニお^ニし^ニせ^ニる^ニハ^ニむ^ニが^ニし^ニん^ニ。

○花^ニノ^ニ夜^ニテ^ニ流^ニル^ニ川^ニス^ニチ^ニニ^ニソ^ニウ^ニテ^ニ流^ニし^ニト^ニナ^ニカ^ニラ^ニ方^ニハ^ニ花^ニ子^ニテ^ニキ^ニテ^ニス
レ^ニハ^ニ山^ニニ^ニハ^ニモ^ニウ^ニ花^ニハ^ニナ^ニチ^ニツ^ニテ^ニレ^ニウ^ニア^ニハ^ニヤ^ニ春^ニモ^ニナ^ニイ^ニヤ^ニウ^ニニ^ニツ^ニタ^ニワ^ニイ

ま^ニは^ニ何^ニ情^ニを^ニて^ニし^ニの^ニい^ニふ^ニ。 せ^ニし^ニか^ニ。

を^ニし^ニ先^ニど^ニも^ニい^ニふ^ニ。 け^ニく^ニふ^ニ春^ニ履^ニう^ニる^ニも^ニそ^ニこ^ニわ^ニり^ニあ^ニら^ニぬ^ニと^ニい^ニふ^ニ。

○春^ニラ^ニ惜^ニケ^ニレ^ニモ^ニウ^ニ惜^ニセ^ニト^ニ。 昔^ニハ^ニ春^ニモ^ニウ^ニ名^ニテ^ニハ^ニ道^ニ旅^ニナ^ニレ^ニタ^ニレ

ケフニナラテハ春ハナイト存スルニサ

法鏡下白のそとをゆき

亭子院のそとをゆき

みはの

ふのそとをゆきぬきふもふゆきとやき花乃陰うハ

○春ヲモウ今自バカリギヤトハ思ハヌ時テサハ花ノトハ立テイヌルノガ

何トモナイカサアトテサハ花ノトハ立サリトモナイニマシテケフギリノ

春ギヤモノ

とやゆきみ一のそとをゆき

